

2014 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください）			
古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 <u>海外史料領域</u> 複合史料領域			
2.申請課題名			
『豊後切支丹史料』及びその原文書の史料学的研究			
3 新規・継続の別（丸をつけてください）			
☒ 新規 継続			
4.申請者			
特殊史料部門・教授・松井洋子			
5.所内共同研究者			
近世史料部門・准教授	松澤克行	近世史料部門・教授	佐藤孝之
近世史料部門・准教授	杉森玲子	特殊史料部門・准教授	松方冬子
特殊史料部門・助教	岡美穂子	特殊史料部門・助教	岡本 真
6.希望する研究期間			
2014 年度～ 2015 年度 （ 2 年間）			
7.課題の概要(400 字程度) （この項は広報等に利用・掲載することがあります）			
ヴァチカン図書館には、戦前・戦後を通じて日本に滞在したマリオ・マレガ氏（1902－1978、イタリア人のサレジオ会所属司祭）が蒐集した、豊後地方のキリシタン関係史料（以下マレガ文書）約 1 万点余りが、未整理のまま所蔵されている。日本・ヴァチカン双方の関係者の尽力により、2013 年度から人間文化研究機構（主幹：国文学研究資料館アーカイブズ系）が日本側代表機関となり、ヴァチカン図書館と協力して、同文書群の整理・撮影・目録化に着手することになった。史料編纂所も、この事業の日本側連携機関の一つとして参画する。本共同研究では、マレガ文書の整理プロジェクトに関わる研究者、地元大分の研究者、キリシタン史の専門家等の参加を想定し、まず、マレガ氏自身により刊行され、ごく一部ながら文書の翻刻を掲載する『豊後切支丹史料』（正・続）所収史料の再検討を行ない、その位置づけを中心に、史料群全体についての理解を深め史料学的検討を進める。			
8.研究の目的(400 字程度)			
本計画は、マリオ・マレガ著『豊後切支丹史料』及びその原文書を含むヴァチカン図書館所蔵マレガ文書の史料学的検討を課題とし、①目録化を効率よく緻密に進めるために必要な背景知識を蓄積しつつ、『豊後切支丹史料』所収史料を徹底的に再検討すること、②現在も現地に残る史料との関連を探ること、③整理の進捗に応じ可能であれば刊行史料の原文書との照合を行なうこと、④キリシタン史、藩政史等専門の異なる研究者の議論の場を作り、共通理解を深めること、を目的とする。大量のキリシタン関係地方史料の集積は類例がなく、マレガ文書の全体像の解明は近世史料の研究上重要な意義を持つと考えられる。未整理で公開もされず死蔵されてきた史料群を、整理・撮影・目録化し、適切な方法での保存と公開を可能にするためには、日本側の参画が不可欠であるが、必要な作業は膨大で、多くの研究者の協力を得て、長期にわたって支えていく必要がある。本計画は史料学的研究の側面からその一翼を担う役割を果たす。			

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

海外にある個人蒐集の大規模史料群であるマレガ文書は、外国人司祭による蒐集文書であり、蒐集者による独自の分類の痕跡や欧文によるメモを含むなどの特殊性を持つ。欧文史料を中心としたキリシタン史研究及び近世初期九州地方の藩政史料の研究に蓄積を持つ史料編纂所の研究者が中心となり、マレガ文書の整理プロジェクトに関わる研究者、地元大分の研究者、キリシタン史の専門家等が集まることができれば、相互の知識情報を交換し、史料学的研究を深めることが可能となる。必要な情報を整理し共有化することは、整理・目録化作業の効率化・緻密化にも資する。禁教後のキリシタンに関する研究はもとより、臼杵藩・岡藩等の藩政、長崎奉行と九州諸大名との関係等、幕政史・藩政史から豊後地方史まで、近世史研究の様々な分野の研究成果が期待され、海外史料分野を持つ日本史の研究所である史料編纂所にふさわしい共同研究としての意義を持つ。

10. 研究の実施計画

- * 共同研究者は分担して、下記の調査・検討を行なう。
 - ・ 先行研究の検討（豊後キリシタン史の研究状況・マレガ文書の利用状況）
 - ・ 豊後地域に関する検討（現在の史料残存状況・地域状況の把握）
 - ・ 『豊後切支丹史料』の分析（内容検討、地名・役職名・人名等のリスト作成）
（リスト作成等の作業の一部は謝金・外注等による入力を予定している。）
- * マレガ文書と関係する地域の実地踏査、関連史料調査を行なう。
- * 共同研究者の一部は整理プロジェクトの海外調査に参加する。
- * 整理プロジェクトの進捗状況により、可能であれば、原文書についての検討も行ないたい。（不確定要素が多いが、最低限概要調査による情報を活用する。）
- * 共同研究者による研究会を開催し、研究成果を集約する。

11. 研究成果の公開計画

最終的には、整理事業の結果が目録・画像として公開される形となるが、『豊後切支丹史料』の内容分析及び作成したリスト類等については、史料編纂所の紀要等の媒体に随時報告し、豊後地方におけるキリシタン史料を中心とする近世史料研究に有用な情報を提供していきたい。また、ヴァチカン側にも情報が共有できるよう、可能な部分については英語での報告も視野に入りたい。

12. 共同研究員にもとめる役割

- ・ 整理プロジェクトによるヴァチカン調査との連動
- ・ 豊後地域史、キリシタン史の立場からの情報提供、調査分析への参加
- ・ 研究会への参加